宮城県
スタディデザイン
代表
押切 友秀さん

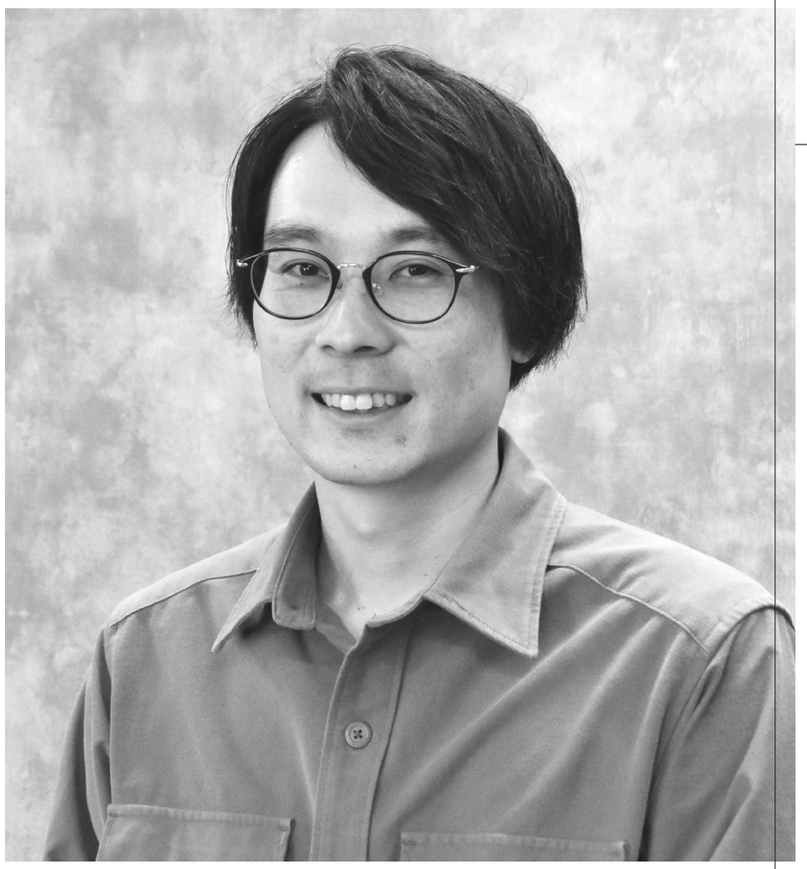
「この先生のおかげで成績が伸びた」。塾講師冥利につきる言葉だろう。しかし本当は、どの先生が教えても成績が伸びるのが理想だと思う。僕は、そんな塾を作りたい。余計なことにコストはかけない。ただ、生徒のためになることだけに時間と労力を注ぎたい。

優れた講師に当たればラッキー それで本当に良いのか

例えるならそれは、「親ガチャ」ならぬ「講師ガチャ」と言ったところだろうか。

押切友秀は、地元の仙台で個別指導学習塾「スタディデザイン」を開いて8年。「生徒一人ひとりと向き合う塾」を標榜する。ただ、あえて意地の悪い言い方をすれば、塾業界においてそのスローガンは〝よくある表現〟だと言えるかもしれない。それでも押切がこの理念を掲げるのには、そこに並々ならぬ思いがあるからだ。

そもそも「一人ひとりと向き合う」と言葉にするのは簡単だが、本当に実践するのは口で言うほど容易くはない。押切はその現実を、学生時代の塾講師バイトで嫌と言うほど見てきた。



塾の仕事や子どもたちに何かを教えること自体は、純粋に楽しかった。だが同時に、玉石混交の学生講師が自分流で好き勝手に指導しているような印象もあったと言う。「講師の成功体験は1／1でしかなく、その教え方がすべての生徒に当てはまるわけではないのです。むしろ当てはまらないケースのほうが多いでしょう。そんなことで本当に良いのかという思いがずっと引っかかっていました」。ただ数字ばかりを追い求め、生徒という生身の人間を見ていないかのような経営姿勢にも疑問が残った。

だからこそ、「一人ひとりと向き合う」という言葉の重さを知っている。塾のHPに踊る言葉からも、その強い意志がうかがえた。「どの塾よりも生徒一人ひとりと真剣に向き合う塾です」。

説教しながら先生は言った 「お前は教師か社長になれ」

高校での素行は決して優等生とは言えなかった押切。校長室に呼び出され「このままじゃ退学になってしまうぞ」と最後通牒まで受けた。

しかし、そのとき副担任が語って聞かせた言葉がずっと心に残っていたと言う。「押切、お前は教師か社長になれ」。「私の性格上、一般企業という組織の中ではやっていけないという意味だったんでしょうね（笑）。でも今思えばその通りだったんですよ。先生の言葉を両方実践しようと思ったら、塾だったわけですから」。

実際、大卒後はいったん商社に勤めたが、上司が帰るまで帰れないなど合理性を欠く古い社風になじめず、精神的に参ってしまった。そこで、楽しかった塾の世界に舞い戻る形で転職し、4年修業して独立といういきさつだ。

全国を目指して展開したい でも、質が下がるくらいならやめる

本当の意味で生徒一人ひとりと向き合うために押切がまず大切にしたのは、やはり「この先生だから」という属人性に頼らず「誰が教えても成績が伸びる」という、指導品質の高位水準化を図ることだ。そのため、極めて高い頻度で社員研修やセミナーなどを実施している。また、指導は精神論に偏るのではなく、脳科学に基づいてカリキュラムを組んだ。さらに、教室業務のシステム化・クラウド化を進め、無駄をとことん省いた。

根底にあるのは「生徒の利益（成績向上）に関係ないものにコストはかけない」という徹底した姿勢だ。集客会議をやる時間があるなら、指導法に関する会議や生徒との面談をやったほうがはるかにマシ。そういう発想をする。同塾は地域最安値クラスの低価格も強みの一つだが、それが実現しているのも、そうした姿勢があるからだ。

しかし、それが従業員の犠牲の上に成り立つようでは意味がない。サラリーマン時代の経験を活かして、生徒と向き合うのと同じくらい大事にしているのが、塾を働きやすい業界に変えることだ。「16時に出社して21時半には帰る、みたいなのが目標です。やることをきちんとやって、さっさと帰ればいいと思います。だって社員が楽しくないと生徒も楽しくないでしょう？」。

今後の目標はまず地元の宮城でナンバーワンに、そして東北全域、全国へも展開していくことだ。しかし、「それで品質が下がるようなら拡大はやめる」と言い切る。その信念は決してブレることはない。（敬称略）

「どの塾よりも」「真剣に」一人ひとりと向き合いたい

押切 友秀　TOMOHIDE OSHIKIRI

宮城県出身。大卒後に総合商社に勤めるも、学生時代に経験した塾講師の楽しさが忘れられずカムバック。4年間の学習塾勤務を経て独立開業した。講師個人の指導力に大きく左右されがちな塾のあり方に疑問を抱き、「誰が教えても高い品質を保てる塾」であることに強いこだわりを持つ。塾業界の労働環境の改善にも強い意欲を示して挑戦を続けている。

●個別指導学習塾　スタディデザイン
https://www.studydesign.info/

文／松見敬彦（トリガーワークス）

◆国際統括団体ワールドラグビー（WR）は10月24日、次回の2027年ワールドカップ（W杯）オーストラリア大会で出場チームを現行の20チームから24チームに拡大すると発表した。1次リーグは6組に分かれ、各組の2位までと、3位のうち上位↗4チームの計16チームが決勝トーナメント1回戦に進む。大会は27年10月1日に開幕し、11月13日まで。開催期間は23年大会の約7週間から約6週間に短縮される。日本は既に出場権を獲得している。↘